

京都大学構内遺跡調査研究年報

昭和54年度

京都大学埋蔵文化財研究センター

序

本年度の京都大学構内遺跡の調査は、本部構内、北部構内、医学部構内および和歌山県白浜町瀬戸臨海実験所などの各地で行われた。後半期から助手1名の増員があったが、それでもまだ仕事の量が調査担当者の数を上まわった。その点、調査会長の二年目をお引受けいただいた理学部亀井節夫教授には、多大の御負担をかけることになった。現場の調査が多いということは、センターの本来の目的である研究活動が十分になされなかったうらみがなくもない。しかし、それは徐々に成果をあげるよう努力したいと思っている。調査の件数が多いということは、それだけ、建築計画が多いということである。各部局が任意に建築計画を立てるのを、どこかで整理していただく必要がある。われわれとしては建設に追いたてられる調査ではなく、学術的研究に基づく調査を実施し、その成果をふまえて、大学構内の土地利用について全学的立場から検討されるのが望ましいと考える次第である。

本年度の調査にあたって、多くの人々の御協力をいただいた。京都大学構内遺跡調査会と当センターの委員諸先生には、それぞれの専門分野から、有益な御教示をいただいた。また、奈良国立文化財研究所、高槻市教育委員会、巽三郎氏からは出土遺物について御助言をいただき、京都市文化観光局文化財保護課、和歌山県教育庁文化財課および京都大学施設部、経理部、庶務部と各原因部局の御協力を得た。ここに、厚く御礼申しあげる次第である。

昭和55年1月

京都大学埋蔵文化財研究センター長

樋口隆康

例 言

- 1 本年報は、京都大学構内で昭和54年1月から同12月末日までに発掘・整理作業を終了した埋蔵文化財調査と保存の報告および京都大学構内遺跡に関する研究をまとめたものである。
- 2 国土座標に従って1辺50mの方形の地区割をし、調査地点の位置を表示する。
- 3 層位と遺構の位置は、国土座標第6座標系 ($x = -108,000$ $y = -20,000$) が、($X = 2,000$ $Y = 2,000$) となる京都大学構内座標によって表示する。ただし、旧来の構内座標について、本年度、四等三角点からの厳密な補正を行った(第1章2参照)。
- 4 遺構の略号を使う場合は、奈良国立文化財研究所の方式に従って、溝(SD)、井戸(SE)のように表示し、各調査ごとに通し番号を1から付した。
- 5 遺物番号は本文、実測図、写真を通して表示を統一した。遺跡の調査名であるローマ数字のあとに、調査ごとの通し番号を1から付した。
I : 京都大学北部構内BG31区発掘調査 V : 京都大学教養部構内AO24区発掘調査
II : 京都大学本部構内AW28区発掘調査 VI : 京都市北白川小倉町遺跡の発掘調査
III : 京都大学吉田キャンパスの試掘調査 VII : 京都大学北部構内BD35区発掘調査
IV : 和歌山県瀬戸遺跡の試掘調査
(例 I1 : 京都大学北部構内BG31区出土遺物1番)
- 6 参考文献は、本文中に〔著者名、発表年次〕の形式で表わし、本文末に一括した。
- 7 遺物・遺構の実測と製図は、泉拓良、宇野隆夫、岡田保良、清水芳裕、五十川伸矢、吉野治雄、津隈久美子、田中はる代、家根祥多、藤原喜信、原充、花谷浩、土橋理子が担当した。図面のまとめは吉野治雄が行い、遺物の写真撮影は清水芳裕が担当した。
- 8 本文は、樋口隆康、亀井節夫、泉拓良、宇野隆夫、岡田保良、清水芳裕、吉野治雄、原充が各章を分担執筆し、執筆者名は章の初めに記した。
- 9 編集は、樋口の指導のもとに泉、岡田が行い、清水、五十川、吉野が協力した。

京都大学構内遺跡調査研究年報 昭和54年度

目 次

第1部 昭和54年度京都大学構内遺跡の調査

第1章 昭和54年度京都大学構内遺跡調査の概要と成果……………	1
1 調査の概要……………	1
2 構内座標の転換……………	2
3 調査の成果……………	4
第2章 京都大学北部構内BG31区の発掘調査……………	9
1 調査の方法……………	9
2 層位と堆積……………	10
3 遺構……………	12
4 遺物……………	13
(1) 縄文時代と弥生時代の遺物……………	14
(2) 平安時代以後の遺物……………	16
5 植物遺体……………	17
(1) 花粉分析……………	18
(2) 種実類……………	18
(3) 木質物……………	19
6 そのほかの調査……………	19
7 小結……………	20
第3章 京都大学本部構内AW28区の発掘調査……………	21
1 調査に至る経過……………	21
2 層位……………	22
3 遺構……………	23
4 遺物……………	26
5 小結……………	29

第4章 京都大学吉田キャンパスの試掘調査	31
1 北白川合宿研修所新営予定地BH37区	31
2 医学部総合解剖センター新営予定地AP19区	33
3 医学部構内電気管理設予定地AL18区	36
4 教養部構内電気管理設予定地AM24区	37
5 工学部機械系校舎新営予定地AT29区	39
第5章 和歌山県瀬戸遺跡の試掘調査	41
1 遺跡の概要と調査の経過	41
2 層位と遺構	42
3 遺物	44
4 小結	47
第2部 京都大学構内遺跡の研究	
第6章 京都大学構内出土の旧石器	51
第7章 北白川上層式土器の細分	53
——京都大学教養部構内AO24区出土の縄文土器を中心に——	
1 教養部構内AO24区出土の縄文土器	53
2 北白川扇状地の北白川上層式土器	58
3 北白川上層式土器の細分	59
第8章 平安時代鴨東白河の景観復原	61
1 はじめに	61
2 白川と北白川	62
3 白川の地の展開——院政期以前——	63
4 神楽岡周辺の景観	64
5 むすび	66
参考文献	68
京都大学構内遺跡調査要項	71
京都大学構内遺跡調査の歴史一覧	76

図版目次

- 1 京都大学吉田キャンパスの地区割と調査地点
- 2 京都大学北部構内B G31区 1. 第1検出面の遺構 2. 第2検出面の遺構
3. 南壁の層位
- 3 京都大学北部構内B G31区 1. 小川と足跡群 2. 埋没林
- 4 京都大学北部構内B G31区 1. 足跡列 2. 倒木
- 5 京都大学北部構内B G31区 縄文土器, 弥生土器
- 6 京都大学北部構内B G31区 縄文土器, 土製品, 石製品, 石器
- 7 京都大学北部構内B G31区 土師器, 緑釉陶器, 灰釉陶器, 軒瓦
- 8 京都大学本部構内A W28区 1. 東壁北部の層位 2. 東壁南部の層位
3. 北壁西部の層位
- 9 京都大学本部構内A W28区 1. 検出全景 2. 発掘後全景
- 10 京都大学本部構内A W28区 1. 道S F1断面 2. 道S F1轍
- 11 京都大学本部構内A W28区 1. 土坑S K 3上部の集石 2. 土坑S K 3断面
3. 土坑S K 4断面
- 12 京都大学本部構内A W28区 土師器, 瓦器, 青白磁, 染付, 陶器, 和鏡, 火打石
- 13 京都大学吉田キャンパスの試掘調査 1. B H37区T P 5北壁の層位 2. B H37区
T P 7北壁の層位 3. A P19区T P1南壁の層位
4. A L18区T P 1検出の石列
- 14 京都大学吉田キャンパスの試掘調査 1. A T29区T P 6土坑の層位 2. A T29区
T P4西壁の層位 3. A T29区T P4縄文土器と弥
生土器の出土状況
- 15 和歌山県瀬戸遺跡 1. 遺跡全景 2. 試掘坑A 7西壁の層位
3. 試掘坑A 5西壁の層位
- 16 和歌山県瀬戸遺跡 1. 試掘坑C1北壁の層位 2. 試掘坑D7南壁の層位
3. 土師器, 須恵器, 製塩土器, 土錘
- 17 京都大学構内出土の旧石器

挿 図 目 次

1	医学部構内AN19区出土の弥生土器	5
2	北部構内BD32区出土の軒瓦	6
3	調査区の区割と試料採取地点〔京都大学北部構内BG31区〕	10
4	中央畔下層群の層位	10・11
5	南壁上層群の層位	11
6	第1検出面の遺構	12
7	第2検出面の遺構	13
8	縄文土器と弥生土器	14
9	縄文土器	15
10	土師器, 須恵器, 緑釉陶器, 灰釉陶器, 陶磁器	17
11	種実類による植生復原	19
12	調査区の位置〔京都大学本部構内AW28区〕	21
13	東壁の層位	23
14	おもな遺構	24
15	土師器, 瓦器, 陶磁器	27
16	銭貨, 和鏡	28
17	試掘坑, トレンチの位置〔北白川合宿研修所新営予定地BH37区〕	31
18	TP4, TP3, TP1の層位	32
19	出土遺物	32
20	試掘坑の位置〔医学部総合解剖センター新営予定地AP19区〕	33
21	TP4, TP7, TP1の層位	34
22	出土遺物	35
23	TP2, TP3, TP1の層位〔医学部構内電気管理設予定地AL18区〕	36
24	TP1, TP2の層位〔教養部構内電気管理設予定地AM24区〕	37
25	TP1出土の土器	38
26	試掘坑の位置〔工学部機械系校舎新営予定地AT29区〕	39
27	TP2, TP4, TP6の層位	40

28	出土遺物	40
29	試掘坑の位置〔和歌山県瀬戸遺跡〕	41
30	試掘坑の層位	43
31	縄文土器	44
32	土師器，黒色土器，須恵器，製塩土器	45
33	土錘	46
34	北沖代遺跡出土の土器	48
35	層位模式図	49
36	粒径中央値と淘汰度の相関図	50
37	京都大学構内出土の旧石器	52
38	京都大学教養部構内A O24区出土の縄文土器	55
39	北白川上層式土器の変遷	56・57

昭和55年3月24日印刷

昭和55年3月31日発行

京都大学構内遺跡調査研究年報

昭和54年度

編 集 行 京都大学埋蔵文化財研究センター

印 刷 本 中 西 印 刷 株 式 会 社
京都市上京区下立売通り小川東入